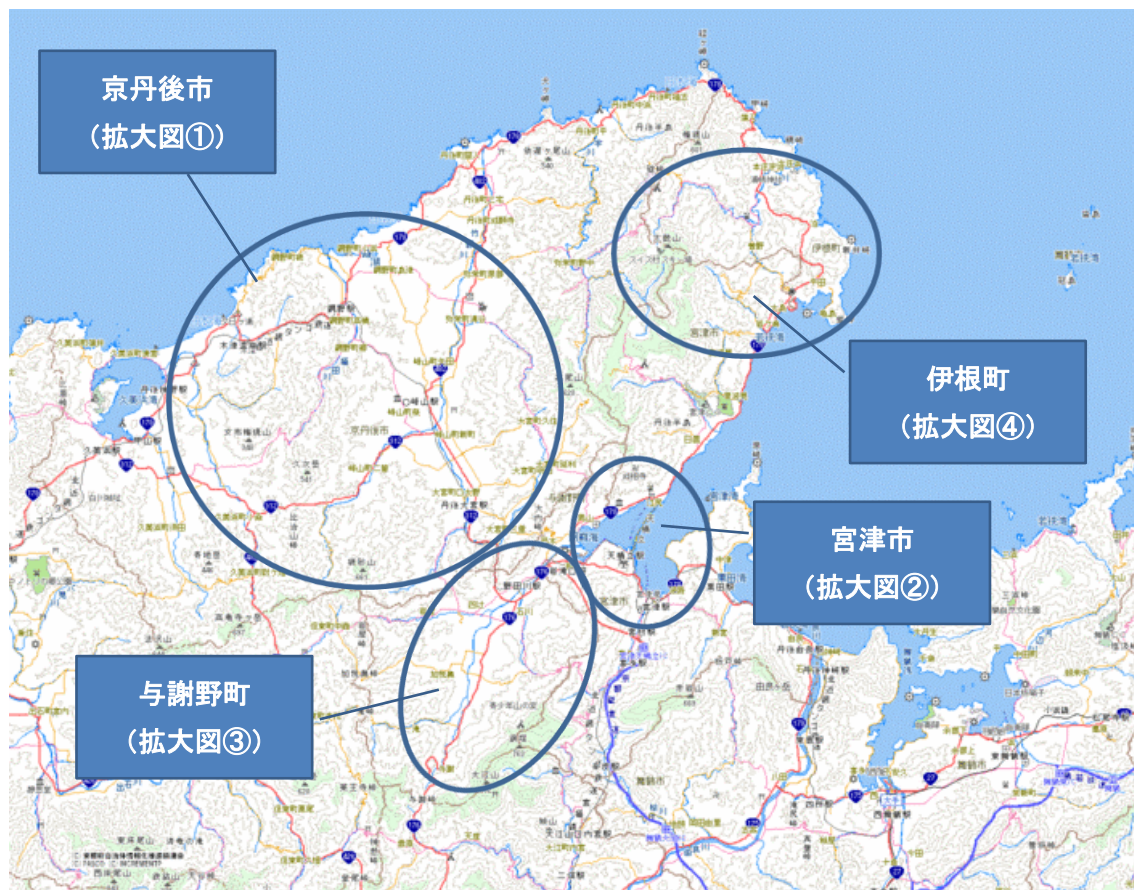


① 申請者	◎京都府 (宮津市、京丹後市、与謝 野町、伊根町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊			
④ ストーリーの概要 (200 字程度)			
京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガチャガチャという機織りの音。 丹後は古くから織物の里であり、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきた。 この地は今も着物の生地の約 6 割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機場が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約 300 年に渡る織物の歴史と文化を体感できる。			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	京都府文化スポーツ部文化スポーツ総務課 副課長 河野 勉		
電 話	075-414-4181	FAX	075-414-4187
E-mail	t-kawano14@pref.kyoto.lg.jp		
住 所	〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町		

市町村の位置図（地図等）

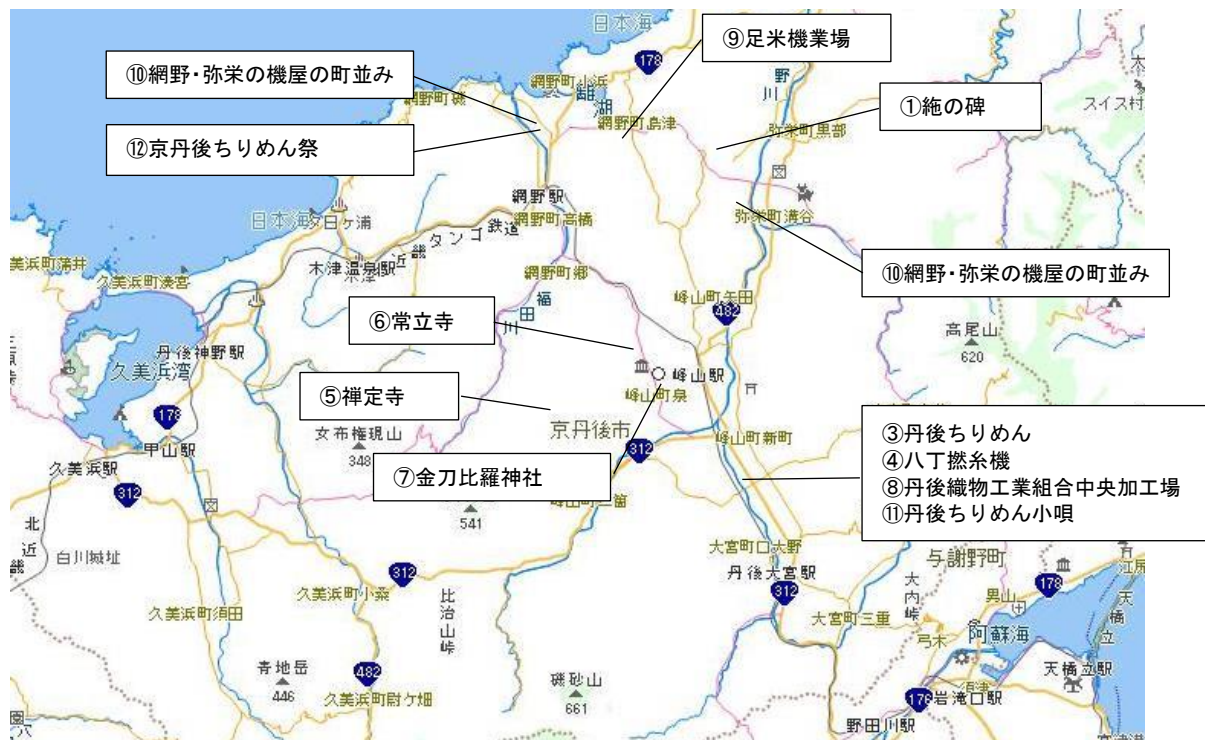


構成文化財の位置図（地図等）



構成文化財の位置図

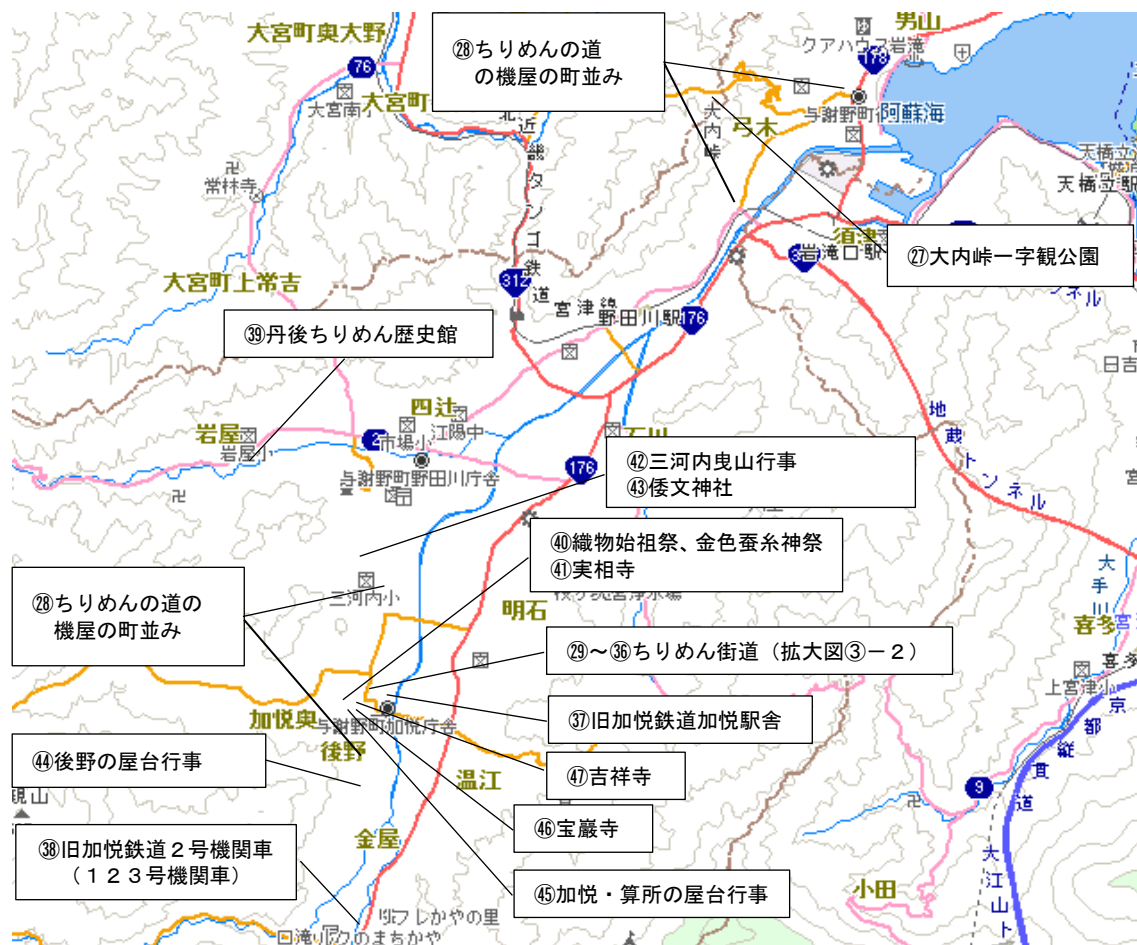
・京丹後市（拡大図①）



・宮津市（拡大図②）



・与謝野町（拡大図③-1）



・与謝野町（ちりめん街道）（拡大図③－２）



・伊根町（拡大図④）



ストーリー

◆ 丹後の絹織物の始まり

京都府北部の丹後の地を訪れると、どこからともなくガチャガチャという機織りの音が聞こえてくる。丹後は、特に秋から冬は「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど、雨や雪の日が多い湿潤な気候で、糸が切れるため乾燥を嫌う絹織物の生産に適していた。そのため、奈良時代には聖武天皇に絹織物「紵」を献上し、南北朝時代のものとされる「庭訓往来」では絹織物「丹後精好」が記されるなど、古くから織物の里であった。

◆ 「丹後ちりめん」の誕生

丹後の内陸部では、農業と織物が人々の生活を支えたが、江戸時代に京都西陣で絹織物「お召ちりめん」が開発されると、絹織物「丹後精好」が売れず、農業も凶作が続き、人々は危機に直面した。ちりめんは、生地に「シボ」と呼ばれる細かい凸凹がある美しい光沢を持つ織物で、当時その技術は門外不出とされていた。そうした中、峰山（京丹後市峰山町）の絹屋佐平治は、人々を救うため、禅定寺の聖観世音菩薩に断食祈願し、京都西陣で修業し研究を重ね、享保5年（1720年）、独自のちりめんを会得した。

時をほぼ同じくして、加悦（与謝野町後野地区）の木綿屋六右衛門も、ちりめん技術導入のため、西陣に加悦の手米屋小右衛門と、三河内（与謝野町三河内地区）の山本屋佐兵衛を送り出し、享保7年（1722年）にその技術を持ち帰らせた。こうして、ちりめん技術を習得した四人は、その技術を惜しみなく地域の人々に教え、ちりめんは瞬く間に丹後地域全体に広まり、住民自らの努力で、その新たな織物技術を駆使し、苦難を乗り越えた。

◆ 「丹後ちりめん」が育んだ町並みと文化

その後、「丹後ちりめん」は、ちりめんの代表的存在として、「シボ」があることで、しなやかな風合いで、発色性に富むことから、友禅染めなどによって美しく彩られる着物の生地として定着し、我が国の和装文化を支えてきた。人々は生地に多彩な模様を施す紋ちりめんの開発や、産地での精練（湯で煮て、絹糸を覆っているタンパク質（セリシン）を取り除く工程）・検査制度の確立などの品質向上の努力を続けた。昭和30～40年代には、ガチャつと織れば万単位で儲かる「ガチャマン」と呼ばれた最盛期を迎えるなど、丹後は絹織物の一大産地として発展し、周辺地域でも養蚕や製糸業を振興するなど、府北部全体の発展に大きく貢献した。

「丹後ちりめん」は、この地の代表的な伝統産業として、人々の生活を支えるとともに、地域の歴史や文化に幅広く影響を与え、町並みや賑わいを育み、往時の繁栄ぶりが伝統芸能に今も息づいている。

峰山・大宮・網野・弥栄（京丹後市）は、「丹後ちりめん」の主な生産地で、現在もノコギリの歯のような三角屋根の織物工場の建物が残り、住居と機屋が一体となったこの地の典型的な機屋の家並みが点在している。



丹後ちりめん



丹後ちりめんの「シボ」



丹後ちりめんの着物



足米機業場



金刀比羅神社



木島神社の狛猫

また、江戸時代の^{みねやま}峰山藩は約 1 万 3 千石の小藩であったが、「^{たんご}丹後ちりめん」が特産品として藩の財政を豊かにした。藩主の京極家が建立した金刀比羅神社は、ちりめんによる繁栄を背景として、広大な境内や多くの社殿群を有し、明治時代の盛大な祭礼巡行の姿を描いた絵馬が残り、華やかな屋台などによる祭礼が今も行われている。同神社の境内にある^{ようさん}養蚕の神を祀る^{このしまじんじや}木島神社は、ちりめんの原料の生糸を供給した糸商人や^{ようさん}養蚕家が創建し、^{ようさん}養蚕の大敵であるネズミを退治する珍しい^{こまねこ}狛猫が奉納されており、絹の恵みに感謝し、その文化を大切に守り続けた人々の営みを伝えている。

江戸時代に宮津藩の城下町として栄えた^{みやづ}宮津（宮津市）は、幕末までは「^{たんご}丹後ちりめん」の生産地であるとともに、ちりめんを主に京都へ出荷した流通の拠点となり、商業・港湾都市として、多くの商人や船乗りなどが訪れ、^{かがい}花街が形成されるほどの賑わいを見せた。当時流通した「^{たんご}丹後ちりめん」などの全国各地の織物や、この地を訪れたちりめん商人などの多くの人々が巡った、近隣の^{あまのはしだて}天橋立や^{ちおんじ}智恩寺などの象徴的な風景が、民謡「^{みやづぶし}宮津節」として歌い継がれている。また、美しい白壁に^{ぜい}贅を尽くした座敷や庭園のある糸間屋などの商家と、^{せんぼんこうし}千本格子のある^{かがい}花街の町家が今も残り、当時の賑わいの面影を伝えている。

^{かや}加悦・^{のだがわ}野田川・^{いわたき}岩滝（与謝野町）は、昭和初期の織物工場や^{はたや}機屋の家並みが見られる「^{たんご}丹後ちりめん」の主な生産地であり、明治から昭和には、^{かや}加悦と^{のだがわ}野田川が丹後と京都を結ぶ「^{たんご}丹後ちりめん」の物流拠点としても栄えた。なだらかな坂道が曲線を描く街道筋に、今も^{はたおと}機音が聞こえる明治時代の織物工場「^{にしやまきぎょうじょう}西山機業場」や、ちりめんの流通が育んだ懐かしさを感じる木造・土壁の町家などの、明治・大正・昭和の各時代の建造物が建ち並んでいる。まるで屋根のない建築博物館のような「ちりめん街道」と呼ばれる町並みが大切に守られているほか、この町の人々はちりめんの生産・流通で得た資金を道路や発電所、鉄道などの建設に投資し、住民の出資で「^{かや}加悦鉄道」が大正 15 年(1926 年)に開業した。当時のちりめんによる繁栄ぶりが、華やかな 12 台の^{やたい}屋台が巡行する^{みごちひきやまぎょうじ}三河内曳山行事や^{うしろの}後野・^{さんじょ}算所・^{かや}加悦の屋台巡行などの「^{たんご}丹後ちりめん」が育んだ祭礼行事として継承されている。

◆ 現代に受け継がれる「丹後ちりめん」の技術と文化

^{たんご}丹後地域は、現在も国内の着物の生地（和装用^{きじ}表^{おもてしろ}白生地）の約 6 割を生産し、生糸の 3 割以上を消費する国内最大の絹織物産地である。「^{たんご}丹後ちりめん」の優れた織りの技術は現代に受け継がれ、和装だけでなく、洋装の服地のほか、スカーフ等の小物やインテリア用品等にも活用されている。

また、水に濡れても縮みにくく、^{まさつ}摩擦に強いハイパーシルク加工技術や、ポリエステルちりめんの開発など、様々な分野へ展開しており、約 300 年に渡り継承される「^{たんご}丹後ちりめん」が育んだ織物の歴史と文化は、人々の不断の努力により、今も響く^{はたおと}機織りの音とともに未来へと紡がれている。



旧三上家住宅



今林家住宅



天橋立



ちりめん街道



西山工場(丹後最古のちりめん工場)



丹後ちりめん歴史館



三河内曳山行事

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	あしぎぬ 縄 の碑	未指定	奈良の正倉院に天平 11 年 (739 年) に「丹後国竹野郡鳥取郷」と記された絹織物「縄」が保存されていることから、当地に顕彰碑が建立され、先人に感謝し、丹後ちりめんの発展を祈願する顕彰祭が行われる。	京丹後市
2	たんご ぼうしよく 丹後の 紡織 用具 及び 製品	国指定重要有形民俗文化財	丹後地域は、ちりめん以外にも藤織り、裂き織り、麻布織り、木綿織りなど、近年まで多様な織物が生産され、当時の用具類と製品が保存されており、藤織りは全国で唯一技術が残る。	宮津市
3	たんご 丹後ちりめん	未指定	緯糸に強い撚りをかけた生糸を使い、生地に細かい凸凹状の「シボ」がある織物。しなやかな風合いで、発色性に富むのが特徴。江戸時代に峰山の絹屋佐平治と、加悦谷の手米屋小右衛門、山本屋佐兵衛、木綿屋六右衛門が京都西陣から技術を習得し発祥した。	京丹後市、 宮津市、 与謝野町
4	はっちょうねんしき 八丁撚糸機	未指定	丹後ちりめんの特徴の「シボ」と呼ばれる細かい凸凹を生み出すため、水を注ぎながら糸に撚りを掛ける機具	京丹後市 与謝野町
5	ぜんじょうじ 禪定寺	未指定	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治が京都の西陣の技術習得を祈願し、佐平治が最初に織ったちりめんとされる「縮み布」が奉納されている。	京丹後市
6	じょうりゅうじ 常立寺	未指定	丹後ちりめんの創業者の一人、絹屋佐平治（後に森田治郎兵衛と改名）の墓碑があり、現在も同氏の功績をたたえる慰霊祭が行われる。	京丹後市
7	ことひらじんじや 金刀比羅神社	未指定	丹後ちりめんの繁栄が財政を支えた峰山藩の藩主の京極家が創建し、ちりめんの繁栄を背景に、広大な神域や多くの社殿群を有し、華やかな屋台行事が行われる。境内の糸商人や養蚕家が建立した木島神社には、養蚕の大敵であるネズミを退治する狛猫がある。	京丹後市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
8	たんごおりもの こうぎょうくみあい 丹後織物工業組合中央 加工場	未指定	たんご 丹後ちりめんは、かつては精練（湯 で煮て絹糸の表面のタンパク質（セリ シン）を取り除く工程）されず京都の 問屋へ出荷されたが、昭和初期に、地 元で精練と検査を行う国練検査制度を 開始。現在も本工場で精練・検品を経 て、丹後ちりめんとして出荷される。	京丹後市
9	あしよねきぎょうじょう 足米機業場	未指定	あみの 網野（京丹後市）にある織物工場で、 昭和初期のノコギリ型の三角屋根のあ る織物工場特有の建物が残る。	京丹後市
10	あみの・やさか 網野・弥栄の機屋の町並 み	未指定	たんご 丹後ちりめんの工場の多くは、住宅 に小規模な機屋を併設して行う家内工 業的な形態であり、網野町浅茂川や 弥栄町和田野地区には、こうした機屋 が点在している。	京丹後市
11	たんご 丹後ちりめん小唄	未指定	昭和 10 年(1935 年)に、たんご 丹後ちりめんの宣伝のため、新たに作られた唄で お座敷唄としても唄われた。	京丹後市
12	きょうたんご 京丹後ちりめん祭	未指定	約 70 年に渡り続く、たんご 丹後ちりめんによるファッションショーなどの着物の 魅力を発信・体感する祭典	京丹後市
13	きゅうみかみけじゅうたく 旧三上家住宅	国指定重要文 化財 府指定名勝	江戸時代に酒造業・廻船業・糸問屋 等を営んだ三上家は、宮津城下有数の 商家で、外観は美しい白壁、贅を尽く した座敷や庭園等が特徴で、城下町 宮津の面影を残している。	宮津市
14	いまばやしけじゅうたく 今林家住宅	国登録有形文 化財	江戸から明治の糸問屋、ちりめん問 屋であった町家で、白壁に格子戸とい う商家の趣を今も残しており、宮津の 城下町を代表する町家建築のひとつ。	宮津市
15	せいきろう 清輝楼	国登録有形文 化財	江戸時代に創業し、たんご 丹後ちりめん で栄えた宮津城下町を訪れた多くの文人 墨客に愛された旅館で、江戸時代の京 都の様々な絵師達や、明治以降の菊池 寛、吉川英治など多くの作家・詩人達 が訪れた。	宮津市
16	ちやろくほんかん 茶六本館	国登録有形文 化財	江戸時代に創業した旅館で、たんご 丹後ち りめん で栄えた宮津のまちを象徴する 建物で、ちりめん商人をはじめとする 多くの来訪者が宿泊した。	宮津市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
17	新浜の町家	未指定	宮津藩の城下町であった宮津の新浜地区には花街が生まれ、多くの芸妓衆がおり、宮津節が唄われていたと言われ、千本格子の町屋が残り、花街の風情を伝えている。	宮津市
18	民謡 宮津節	未指定	江戸時代に商業・港湾都市として栄えた、宮津の花街で唄われたのが発祥とされ、丹後ちりめん等の各地の織物や、訪れたちりめん商人など多くの人々が巡った、天橋立や智恩寺などの象徴的な風景が歌い継がれている。	宮津市
19	宮津おどり	未指定	民謡「宮津節」と「宮津盆おどり松坂」、「あいやえおどり」の三つが組み合わされた踊りで、8月15日には市民総おどり大会を開催。	宮津市
20	あまのはしだて 天橋立	国指定特別名勝 国選定重要文化的景観	宮津節で唄われた、丹後地域を象徴する景観地で、丹後ちりめんの産地のシンボルとしても使用され、平安時代以降に貴族や文人墨客が来訪する景勝地となり、江戸時代には庶民の観光地となった。	宮津市
21	ちおんじ 智恩寺	国指定特別名勝 国選定重要文化的景観	宮津節で唄われた、文殊菩薩を本尊とする日本三文殊の一つで、智慧を授かる文殊さんとして、学業成就を願う人々が全国各地から参詣に訪れる。	宮津市
22	ちえもち 智慧の餅	未指定	宮津節で唄われた、江戸時代から伝わる名物餅で、智恩寺本尊の文殊菩薩の智慧に由来し、現在も智恩寺門前の四軒茶屋で参拝客をもてなしている。	宮津市
23	なりあいじ 成相寺	国指定史跡 国選定重要文化的景観	宮津節で唄われた、西国三十三所巡礼の観音霊場で、平安時代後期の「梁塵秘抄」、「今昔物語」にも登場する古くからの巡礼地	宮津市
24	このじんじゃ 籠神社	府指定有形文化財（建造物） 国選定重要文化的景観	宮津節で唄われた、傘松下にあり、天照大神、豊受大神がこの地から伊勢に移された故事から元伊勢と呼ばれ、毎年4月には「葵祭」を開催	宮津市
25	このじんじゃおくのみや 籠神社奥宮 真名井神社	府指定有形文化財（建造物） 国選定重要文化的景観	宮津節で唄われた、傘松下にあり、籠神社の奥宮と伝えられている。 天照大神、豊受大神をはじめとする神々が祀られる「磐座」がある。	宮津市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
26	かさまつこうえん 傘松公園	国指定特別名勝地内 国選定重要文化的景観地内	宮津節で唄われた、傘松下にあり、天橋立の代表的な眺望地で、天橋立を逆さに見る「股のぞき」の場で有名。	宮津市
27	おおうちとうげいち じ かんこうえん 大内峠 一字観公園	未指定	宮津節で唄われた、「一字観」と呼ばれる天橋立の代表的な眺望地で、与謝野鉄幹・晶子が和歌に詠んでいる。	与謝野町
28	ちりめんの道の機屋の町並み	未指定	丹後ちりめんの工場の多くは、住宅に小規模な機屋を併設して行う家内工業的な形態であり、「ちりめんの道」と呼ばれる与謝野町の野田川西岸には、こうした機屋が連なっている。	与謝野町
29	ちりめん街道 (与謝野町 加悦伝統的建造物群保存地区)	国選定重要伝統的建造物群保存地区	丹後と京都を結ぶ丹後ちりめんの物流の拠点として栄えた街並みが残り、明治の織物工場や、ちりめんの流通が育んだ木造・土壁の町家などの明治・大正・昭和の建造物が建ち並ぶ。	与謝野町
30	きゅうびとうけ 旧尾藤家住宅	府指定文化財 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にある、生糸・ちりめん問屋であった町家で、尾藤家は加悦の大庄屋を代々務め、丹後ちりめんの発展に貢献し、明治時代以降には銀行業や町政にも活躍した。	与謝野町
31	にしやまきぎょうじょう 西山機業場の建物群	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にある、丹後地域に唯一現存する明治から大正時代の大規模な織物関連の建物群で、現在も織物工場として使用されている。	与謝野町
32	みほんちよう はしだて 織物見本帖「橋立」	未指定	西山機業場で製織された、明治から大正時代の稀少な織物見本帖で、当時の丹後ちりめんの生地国内向け・海外向け等も示されている。	与謝野町
33	しもむら よ しちろう 下村与七郎家住宅	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にある、江戸から明治時代の建物で機屋窓と呼ばれる格子付き窓があり、明治時代は郵便局があり、変動が激しい生糸相場の把握に電信事業が活用された。	与謝野町
34	しもむらごろうすけ 下村五郎助家住宅	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にある、江戸時代からの商家で、ちりめん業を営んだ。屋号は「角屋」と称する。	与謝野町
35	すぎもと じ すけ 杉本治助家住宅	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にある、江戸時代から続く家で、生糸やちりめんの取引を家業としていた。	与謝野町

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
36	旧加悦町役場庁舎	府指定建造物	ちりめん街道内にある、昭和初期の洋風建築で、織物業の篤志家が建設費の半分ほどを寄付し建設された。	与謝野町
37	旧加悦鉄道加悦駅舎	町指定文化財	丹後ちりめんの輸送を目的に、住民出資で、大正時代に開業した加悦鉄道の駅舎で、昭和 60 年(1985 年)の廃線後は、鉄道資料館として活用。	与謝野町
38	旧加悦鉄道 2 号機関車 (1 2 3 号機関車)	国指定重要文化財	国の鉄道院・鉄道省に在籍し、加悦鉄道に譲渡された蒸気機関車で、加悦 S L 広場で保存・展示されている。	与謝野町
39	丹後ちりめん歴史館	未指定	昭和初期の工場跡地を活用した施設で、織物工場特有のノコギリ型の三角屋根が印象的な建物が残り、丹後ちりめんの工程見学や手機体験が可能。	与謝野町
40	織物始祖祭 金色蚕糸神祭	未指定	毎年秋に、丹後ちりめんの創業者に感謝する織物始祖祭と、養蚕・生糸・織物の守護神の金色蚕糸神に祈願する金色蚕糸神祭が行われる。	与謝野町
41	実相寺	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にあり、養蚕・生糸・織物の守護神の金色蚕糸神を祀る金色堂では、毎年秋に金色蚕糸神祭を開催。	与謝野町
42	三河内曳山行事	府登録無形民俗文化財	織物の神「天羽槌雄命」を祭神とする倭文神社の祭礼行事で、毎年 5 月に丹後ちりめんによる繁栄を象徴した、華やかな 12 台の屋台が巡行する。	与謝野町
43	倭文神社	府登録建造物	織物の守護神とされる「天羽槌雄命」を祭神とし、丹後ちりめんの繁栄を伝える三河内曳山行事が開催される。	与謝野町
44	後野の屋台行事	府登録無形民俗文化財	丹後ちりめんによる繁栄を伝える与謝野町後野地区の愛宕神社を氏神とする祭礼で、江戸時代から伝わる華麗な芸屋台や太鼓台などが巡行する。	与謝野町
45	加悦・算所の屋台行事	未指定	ちりめんによる繁栄を伝える、天満神社を氏神とする加悦・算所区の神輿渡御と屋台巡行の祭礼行事	与謝野町
46	宝巖寺	未指定 (重伝建特定物件)	ちりめん街道内にあり、丹後ちりめん創業者の一人、木綿屋六右衛門の菩提寺で、本尊の阿弥陀如来は、ちりめんの商家の尾藤家が寄進した。	与謝野町

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
47	吉祥寺 きちじょうじ	未指定 (重伝建特定 物件)	ちりめん街道内にあり、丹後ちりめんの創業者の一人の手米屋小右衛門の菩提寺で、境内には墓碑が残る。	与謝野町
48	丹後大仏 たんごだいぶつ	未指定	筒川村(伊根町筒川地区)で明治時代に、筒川製糸工場が建設され、丹後ちりめんなどの材料を供給した。火事で全焼し、再建後の大正8年(1919年)の同工場の従業員の東京への慰安旅行で、多くの従業員がスペイン風邪で亡くなり、慰霊のため建立された。	伊根町

構成文化財の写真一覧

1 縄の碑



2 丹後の紡織用具及び製品 (一部)



(京都府立丹後郷土資料館提供)

3 丹後ちりめん



(丹後ちりめんの反物)



(丹後ちりめんの「シボ」)



(丹後ちりめんの着物)



(丹後ちりめんの着物)

4 八丁撚糸機



5 禅定寺



(丹後ちりめんの織機)



(丹後ちりめんの製織作業の様子)



(絹屋佐平治が禅定寺に奉納した
織り始めのちりめん)

6 常立寺



(金刀比羅神社本殿)



(常立寺 絹屋佐平治(森田治郎兵衛)の墓碑)



(金刀比羅神社の屋台行事)

7 金刀比羅神社



(金刀比羅神社の境内の木島神社)



(木島神社の狛猫)

8 丹後織物工業組合中央加工場



(足米機業場)



(精練の様子)

10 網野・弥栄の機屋の町並み



9 足米機業場



11 丹後ちりめん小唄

12 京丹後ちりめん祭



(丹後ちりめん小唄)

14 今林家住宅



15 清輝楼



(京丹後ちりめん祭)

13 旧三上家住宅



16 茶六本館



17 新浜の町家



21 智恩寺



18 民謡 宮津節

19 宮津おどり



22 智恵の餅



20 天橋立



23 成相寺



24 籠神社



27 大内峠一字観公園



25 籠神社奥宮 真名井神社



28 ちりめんの道の機屋の町並み



26 傘松公園



(傘松公園での「股のぞき」)



29 ちりめん街道



(西山機業場の織物工場)



32 織物見本帖「橋立」



30 旧尾藤家住宅



31 西山機業場の建物群



(西山機業場の織物工場)

33 下村与七郎家住宅



34 下村五郎助家住宅



37 旧加悦鉄道加悦駅舎



35 杉本治助家住宅



38 旧加悦鉄道 2 号機関車
(1 2 3 号機関車)



36 旧加悦町役場庁舎



39 丹後ちりめん歴史館



41 実相寺



(丹後ちりめん歴史館)



40 織物始祖祭、金色蚕糸神祭



(織物始祖祭)

42 三河内曳山行事



43 倭文神社



(金色蚕糸神祭)



44 後野の屋台行事



47 吉祥寺



45 加悦・算所の屋台行事



48 丹後大仏



46 宝巖寺

